

今回私は、2009年11月26日から10日間の日程で、チェンマイ大学にて開催された農業祭への参加と、タイにおけるブナ科樹木萎凋病の調査に同行させていただきました。私にとっては初めてのタイ訪問であり、挨拶程度しかわからないタイ語と拙い英語で新地に滞在することに、大きな不安がありました。しかし、この10日間は私の人生にとって本当に大きな10日間となりました。現地の方々や文化との触れ合いを通じて、日本にはないタイの良さ、また逆に日本が持つ良さというものも感じることができました。学生の中にこのような素晴らしい経験ができたことを、本当に嬉しく思うと共に、お誘い頂いた先生やタイの先生方に心より感謝致します。



【私が見たタイ タイから見た日本】



タイの食べ物が辛いということは聞いておりましたが、やはり辛い食べ物が多く驚きました。それとは逆に、緑茶やコーヒーはとても甘く、ノンシュガーで飲む習慣はほとんど無いようです。トムヤンクンやパッタイ、カオソーイ、タイスキ、カオマンガイ等など、タイにもおいしい料理はたくさんありますが、日本にはより素材そのものの味を大切にしている料理が多いように感じました。タイでも日本食は人気があり、日本食レストランが多く見受けられましたが、食卓が欧米化する現代だからこそ、日本人自身も日本食の良さを再確認して欲しいと感じました。

交通量が大変多いタイですが、ヘルメットをしていないバイク、荷台に10人以上乗せている乗用車、3人乗りのバイクなど、日本ではあまり見受けられない光景に驚きました。交通規則や法律はもちろんありますが、必ずしも“法律＝絶対に守らなければならないもの”という認識ではないようです。タイに向かう飛行機内でも、日本のようにシートベルトや荷物の位置を細かくチェックして注意するというようなこともほとんどありませんでした。タイを訪れる日本人や外国人は多いようですが、規則に厳しい毎日を送っている

るからこそ、タイの緩やかさが新鮮に感じるのではないでしょう
うか。タイにはタイの良さが、日本には日本の良さがあり、ど
ちらが勝っているということは決してありませんが、自分の国



をちょっと外から眺めてみると、色々なことに気付くのではな
いかと思います。タイの法律
も少しずつ厳しくなっているようで、将来的に日
本のような姿になるのかもしれませんが、いつまでもその
緩やかな雰囲気で、世界中の人たちの癒しの場であって欲
しいと思いました。



【言葉の壁】

最も苦勞したことは、やはり「言語」でした。タイ語の勉
強はまったくせず、現地でガイドブックを見て挨拶を覚えた
のみで、会話は全て英語で行いました。私のボキャブラリー
が少ないことに加えて、タイの人たち特有の英語の発音がう
まく聞き取れず、なかなか長時間の会話ができませんでした。
言いたいことが浮かんでも、その英語や言い回しが浮かばな
い……。なかなか自分から話しかけることができませんでした。
けれども、その難しさゆえ、通じたときの感動は大きく、
もっともっと話せるようになり
たいと思いました。はじめに
上手く通じなくとも、すぐに
諦めずに伝えようと努力する
こと、自分から話しかけること、
自信を持つことが大切なの
ではないかと思います。会話して
みることで、自分の知らない単

語や言い回しが何かに気付き、「これを英語で伝えたい！」と
いうモチベーションにも繋がるのではないかと思います。今回
の楽しさや悔しさをばねにもっともっと勉強し、いつかまた挑
戦してみたいと思っています。

